

教育改革を、独自の取り組みで

加速 *Acceleration* する。

教育の質の向上へ。

大阪府立大学は「複雑で多面性を持った現代社会の問題に対し、高い公共性と倫理性を保持しつつ、積極的に社会を支え改善しようとする姿勢を持ちながら課題解決に取り組める人材」を養成するため、独自に教育改革に取り組んできました。

平成24年度には学士課程教育再編により「学域制」を導入し、アクティブ・ラーニングの必修科目として「初年次ゼミナール」を開設したほか、「ラーニング・commons」の設置や「学生ポートフォリオ」の導入など、学生の能動的な学修を促進させる取り組みを実践してきました。

ところが、これらの取り組みと並行して実施してきた「学修行動調査」からは、「学生の授業外学修時間が微増に留まる」(GPAが知識習得以外の学修成果と関連しない)という重要な課題が抽出されました。

「大学教育再生加速プログラム」では連続性のあるPDCAサイクルにより、これらの課題の解決を図り、全学的な教育改革のさらなる加速を目指します。



■これまでのFD・IRの取り組み

- 学域制の導入(4学域13学類)
- 学生ポートフォリオの導入
- ラーニング・commonsの設置
- 学修行動調査の実施
- アクティブ・ラーニングの導入(初年次ゼミナールで実施)

■現状の課題

- 学生の授業外学修時間が微増に留まる
- GPAが知識習得以外の学修成果と関連しない

■課題の解決に向けて

- 「改善」+「改革」のさらなる推進

プログラム概要

本プログラムは、これまでの教育改革の成果の検証と、既に顕在化している2つの課題(学生の授業外学修時間が微増に留まる)(GPAが知識習得以外の学修成果と関連しない)の解決を目的としています。

取り組みは **I アクティブ・ラーニング** と **II 学修成果の可視化** に大別され、両者の有機的連携により効果を高めます。(テーマI・II複合型)

I では、これまで主に「初年次ゼミナール」で実施されてきたアクティブ・ラーニング(反転授業等)を専門教育においても段階的に導入し、全学的に拡大することを目指します。また、成績評価に「ルーブリック評価」を採用し、知識習得以外の能力がGPAに反映できる成績評価の方法を開発します。さらに、学生の授業外学修時間の増加を図るため、ラーニング・commonsにおける設備の拡充とTAを配置することにより学修支援の充実を目指します。

II では、これまで学修成果目標の達成度を測定するために実施してきた、「学修行動調査」と「学生ポートフォリオ」を継続的に活用することで、学生個人の成長プロセスの可視化を図ります。また、可視化を通して学修成果がどの科目・どのレベルで身に付くかを確認し、全学の学士課程教育における科目ナンバリングの導入を目指します。



I アクティブ・ラーニング

ICT技術の活用による反転授業の推進

タブレットPCを活用した反転授業を導入し、双方向授業の拡大と学生の授業外学修時間の増加を図ります。「現代システム科学域」と「地域保健学域総合リハビリテーション学類」で先行して実施し、全学展開への足がかりとします。

ルーブリック評価の推進

アクティブ・ラーニングは知識の習得自体ではなくコンピテンシーの獲得を目標とするため、授業目標ごとの達成レベルに合わせたルーブリック評価を開発し、知識偏重の成績評価を見直します。まず「初年次ゼミナール」から導入し、専門科目への拡大を目指します。

ラーニング・commons, TA等の環境整備

本学に設置されたラーニング・commonsを学生が積極的に活用できる環境を構築するため、学生が自由にPCを借りることができるICロッカーを設置します。また、ラーニング・commonsの利用者に適切な学修のアドバイスをできるTAの育成を行い、常駐化を目指します。

II 学修成果の可視化

学生ポートフォリオの運用推進

既に導入・運用している学生ポートフォリオシステムを改修することにより、半期毎の学修成果目標や自己評価の入力率の向上を図り、システム運用を更に活性化させます。

学生調査の継続的な実施と課題の解決

本学では平成21年度を皮切りに学修行動調査を実施しており、これまでの調査により明らかになった課題を解決するため、調査で得られた知見を活用すると共に、反転授業等アクティブ・ラーニングの推進と並行して、調査の継続的な実施を行います。調査により得られた結果は全学に周知するとともに学外にも公表し、教育改革を更に促進させます。

IRの推進

学修行動調査と学生ポートフォリオを連携させることにより、個人の成長プロセスを可視化することが可能となります。また実践・分析結果をPDCAサイクルに組み込んだ上で教育改革を進めるほか、得られた知見をIRの先行事例として「大学IRコンソーシアム」等で公表します。